



東証JASDAQ : 3131

# 2021年3月期（2020年度）決算補足説明資料

2021年5月13日

項番	項 目	ページ
1.	業績ハイライト	P3~
2.	2020年度の振り返り	P7~
3.	2021年度の見通し	P15~
4.	対処すべき課題と収益構造改革	P21~
5.	経営目標と株主還元	P25~
6.	参考：用語解説	P28
7.	リスク情報と本資料のお取り扱い上のご注意	P29

# 1. 業績ハイライト

項番	項目	ページ
1-1	業績ハイライト	P4
1-2	業績の推移グラフ	P5
1-3	過去5期の業績推移	P6

# 1-1. 業績ハイライト

金額単位：百万円

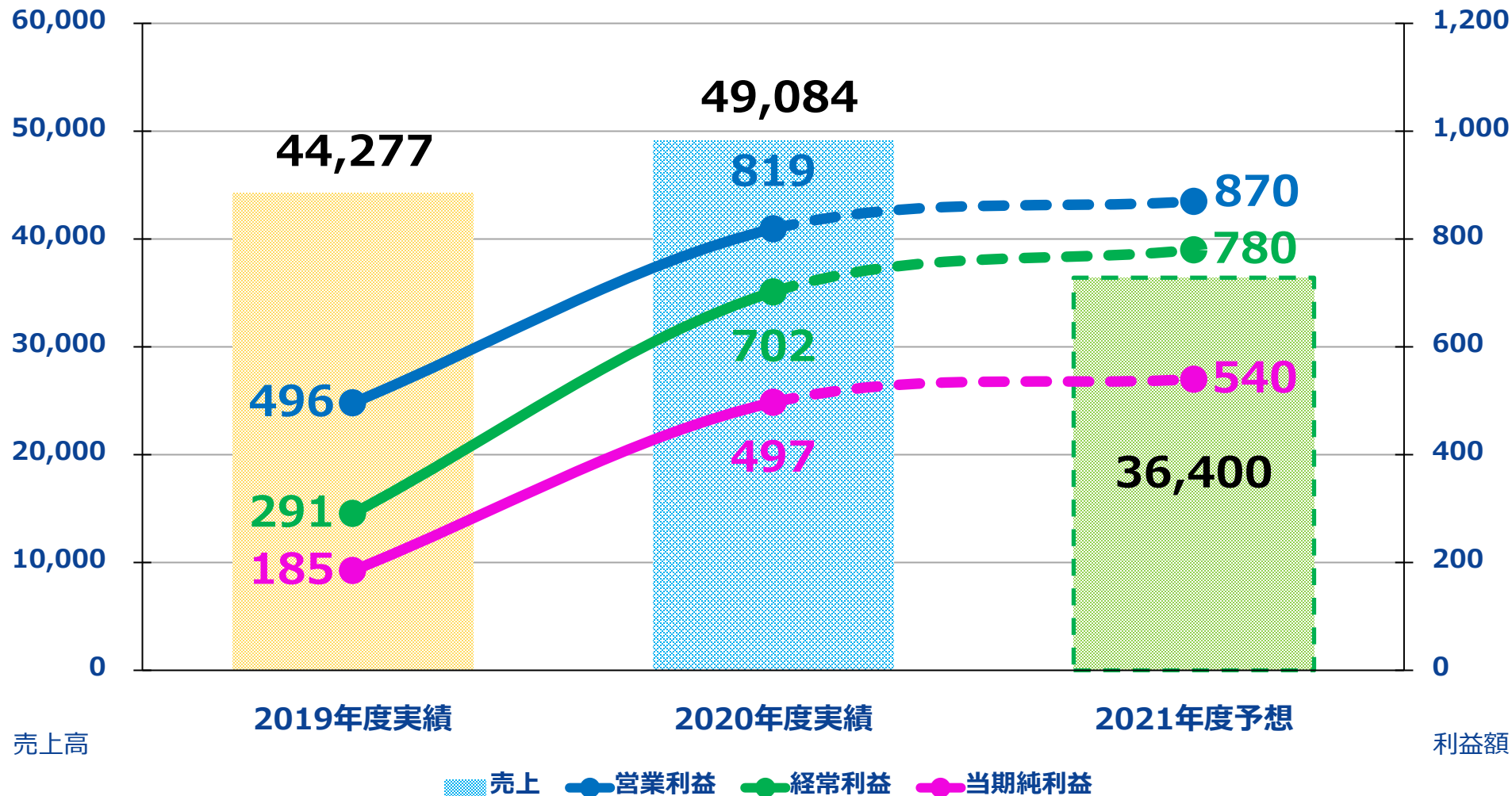
	2019年度		2020年度				2021年度	
	実績		修正予想値	実績			業績予想	
	金額 (対売上高%)	前年 増減%	金額 (対売上高%)	金額 (対売上高%)	前年 増減%	対予想%	金額 (対売上高%)	前年 増減%
売上高	44,277	△4.0%	47,000	49,084	+10.9%	+4.4%	36,400	△25.8%
営業利益	496 (1.1%)	△20.8%	750 (1.6%)	819 (1.7%)	+65.2%	+9.3%	870 (2.4%)	+6.2%
経常利益	291 (0.7%)	△2.7%	680 (1.4%)	702 (1.4%)	+141.0%	+3.4%	780 (2.1%)	+11.0%
当期 純利益	185 (0.4%)	△11.6%	460 (1.0%)	497 (1.0%)	+168.3%	+8.1%	540 (1.5%)	+8.6%

注：記載している当期純利益については「親会社株主に帰属する当期純利益」となります。



# 1-2. 業績の推移グラフ

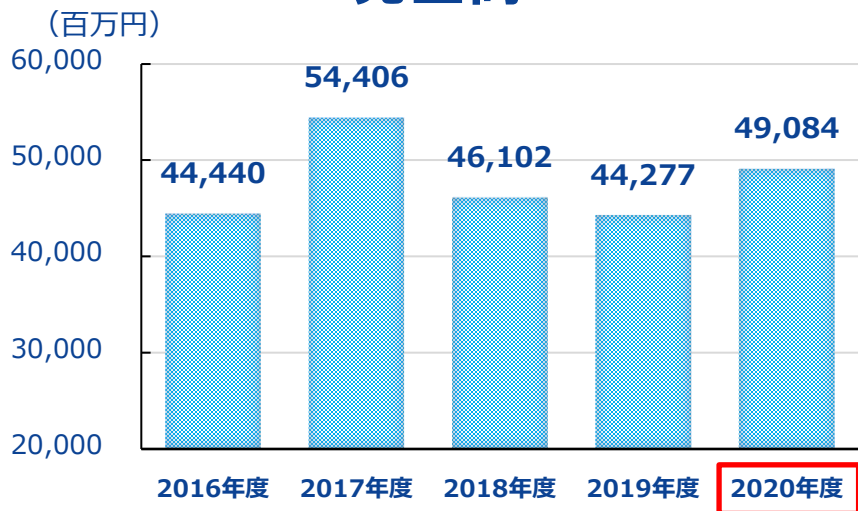
金額単位：百万円



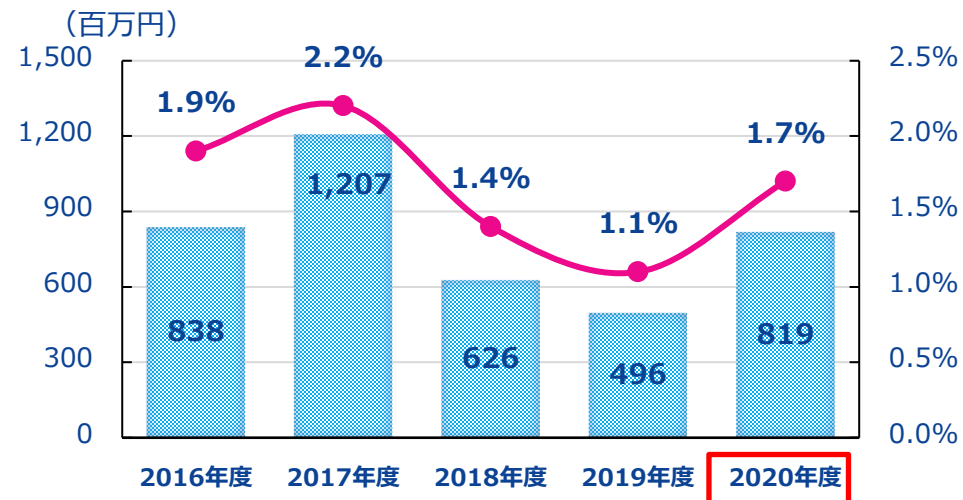
注：記載している当期純利益については「親会社株主に帰属する当期純利益」となります。

# 1-3. 過去5期の業績推移

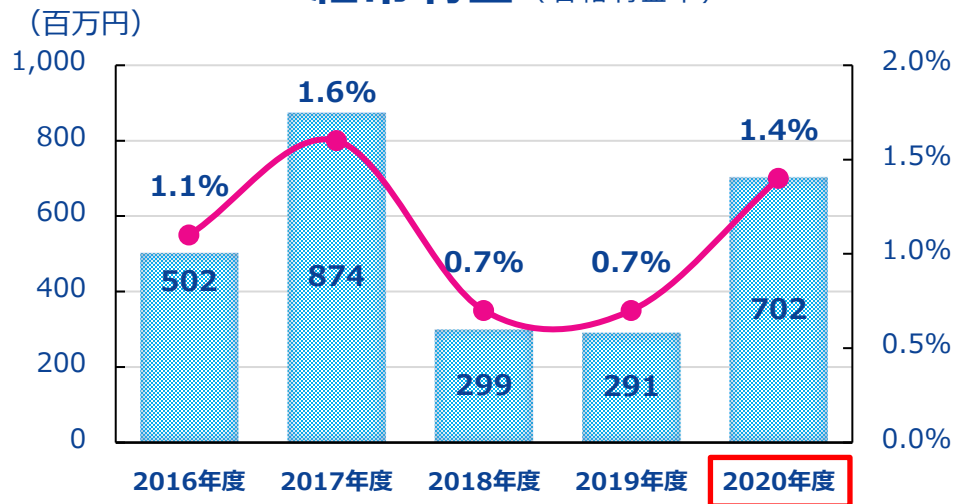
## 売上高



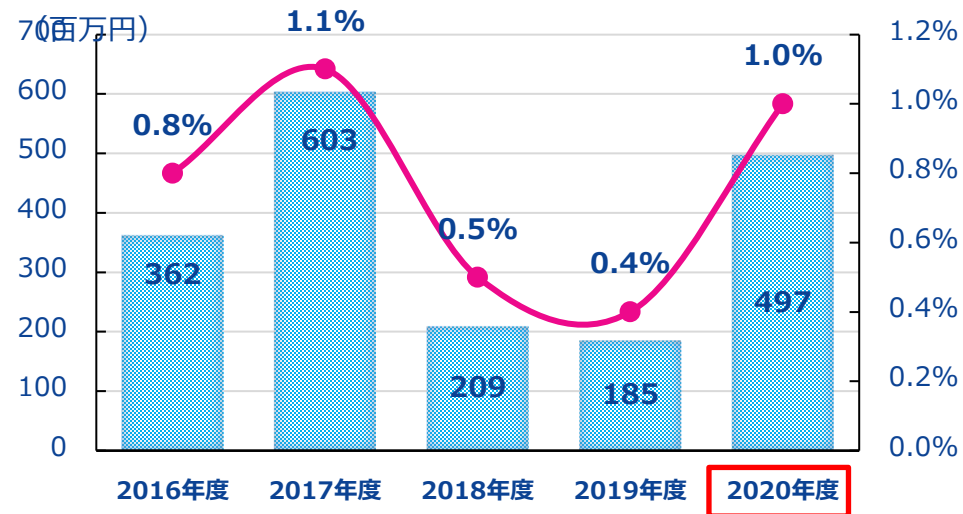
## 営業利益 (右軸利益率)



## 経常利益 (右軸利益率)













## 親会社株主に帰属する当期純利益 (右軸利益率)



## 2. 2020年度の振り返り

項番	項 目	ページ
2-1	2020年度のポイント	P8
2-2	2020年度 四半期毎の推移	P9
2-3	販売状況（取扱商品群/分野別の状況）	P10~11
2-4	利益増減要因（経常利益基準）	P12
2-5	財政状態（貸借対照表）	P13
2-6	その他の経営指標推移	P14

# 2-1. 2020年度のポイント

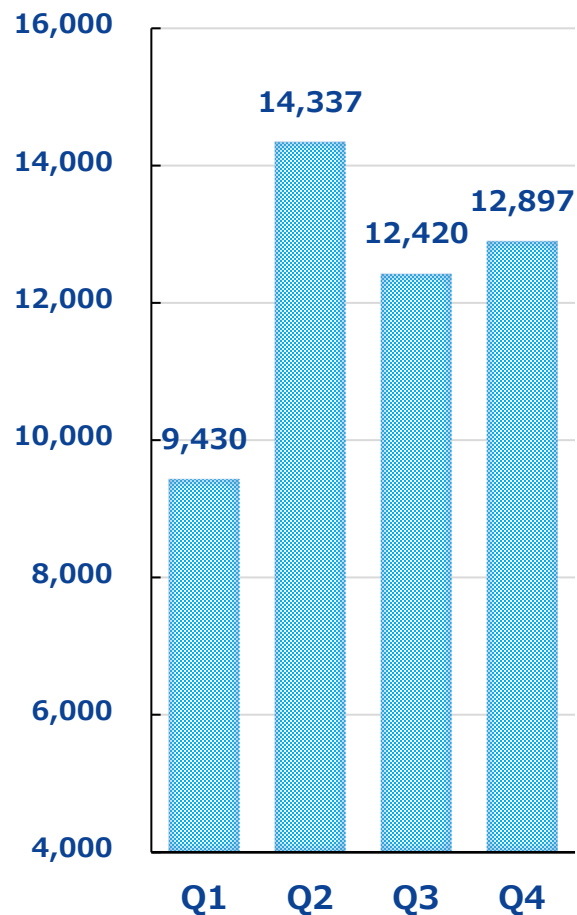
指標	要因・項目		Q1	Q2	Q3	Q4	
売上高	車載用機器向け		コロナ禍で苦戦	中国向けを中心に回復			
	スマホ周辺機器向け		年度をとおり増加傾向				
	スマホ向け有機EL		—	Q2を中心にした特別需要		—	
	GIGA構想案件		—	Q2よりGIGAスクール構想の前倒執行による需要増			
	事務用機器向け		コロナ禍で苦戦			回復傾向	
	バッテリー&開発案件		コロナ禍で、のきなみ開発延期や遅延				
営業利益	売上総利益		コロナ禍で苦戦	バッテリー&開発案件の遅延により、想定していた利益率には満たないものの、ボリュームビジネスの増加により、売上総利益額が増加した。			
	販売管理費		感染防止策として出張等の活動経費が大幅に減少し、営業利益の増加に寄与。しかし、新規開拓などの活動も停滞気味となり、今後の懸念事項となる。				
経常利益	支払利息		ドル金利の低下により、大幅に減少し経常利益の増加に寄与。				
	為替差損益		48百万円の差益	四半期単独 49百万円の差益 上期累計 98百万円の差益	四半期単独 14百万円の差益 第3四半期累計 112百万円の差益	四半期単独 104百万円の差損 通期累計 8百万円の差益 (2月後半からの急激な円安が要因)	



# 2-2. 2020年度 四半期毎の推移

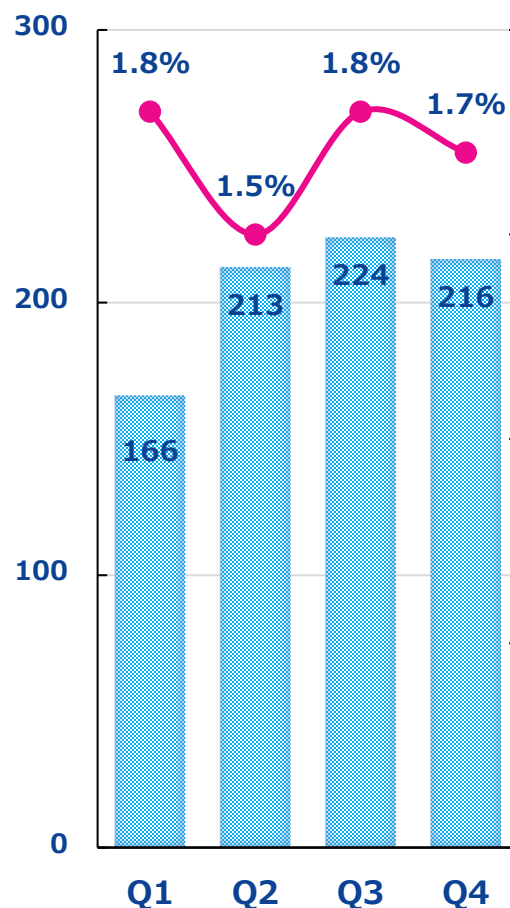
## 売上高

百万円



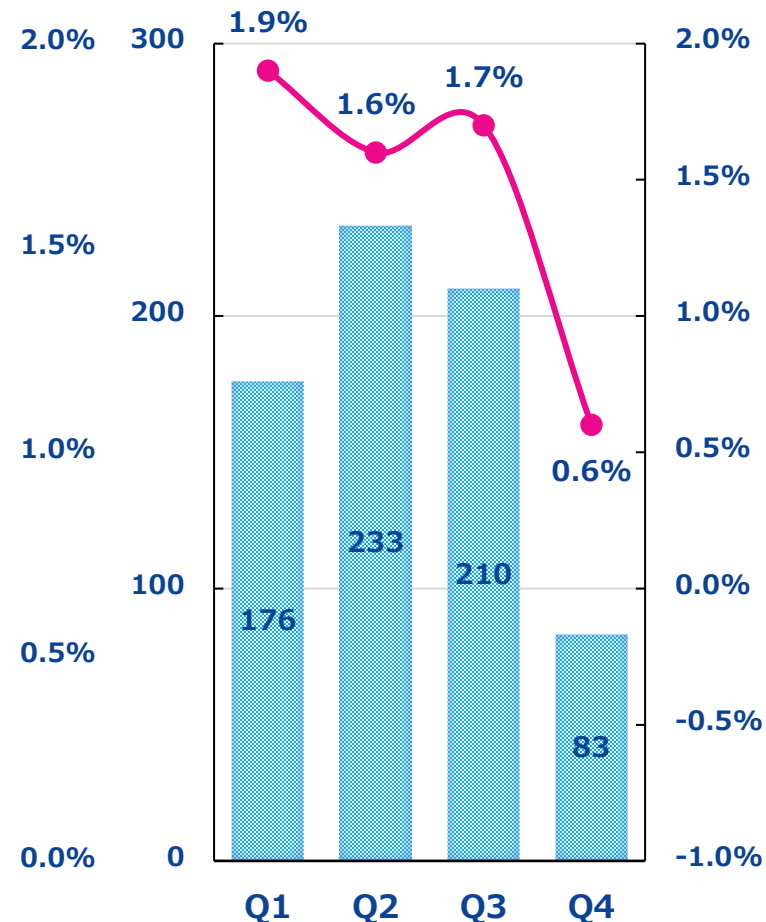
## 営業利益

百万円 (右軸利益率)



## 経常利益

百万円 (右軸利益率)





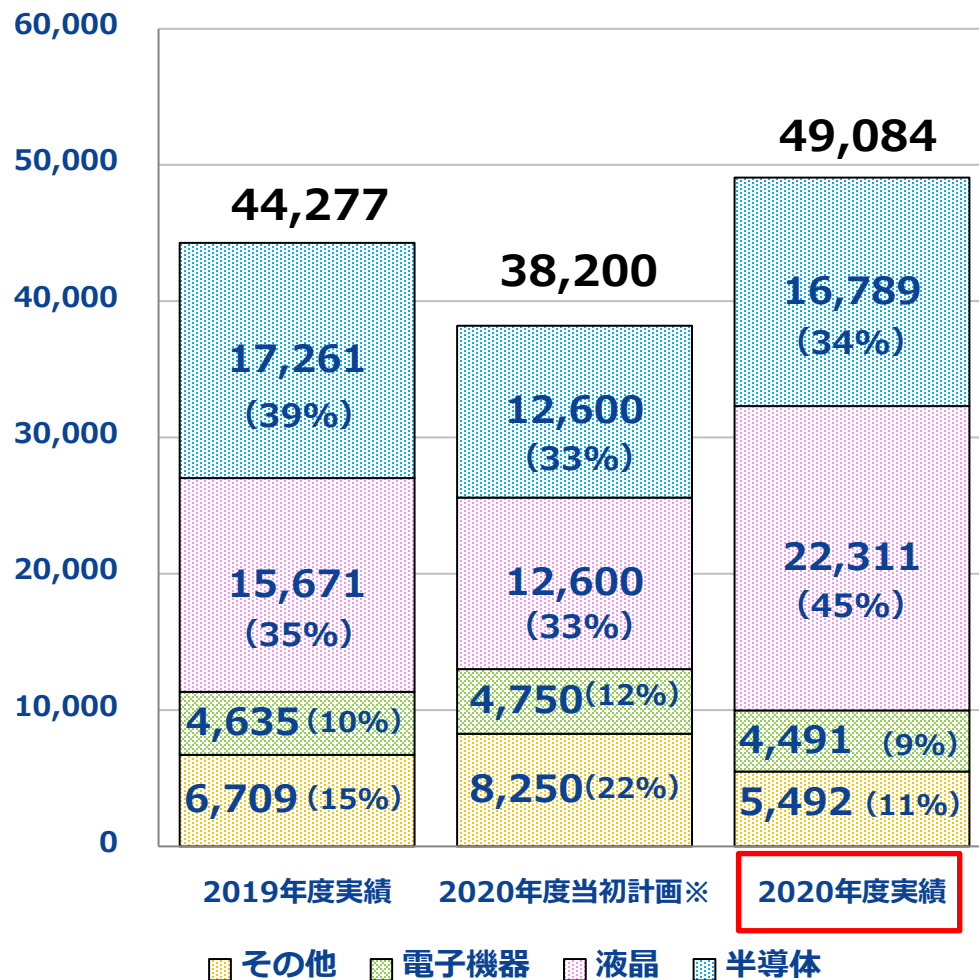
### 4つの商品分野と商品・用途例

商品分野		商品例	用途例
	半導体	メモリー ASIC・ASSP CPU・GPU ファウンドリー LED	カーナビゲーション、 複合機等の事務用機器、 モバイル機器、サーバー、 スマートフォン、アミューズメント、 産業用機器
	液晶	液晶モジュール、有機EL、 タッチパネル	カーナビゲーション、モニター、 スマートフォン、医療用機器
	電子機器	各種検査等装置、SSD、 メモリーモジュール、Board、 通信モジュール、表示機器	産業用機器、車載用機器、 複合機等の事務用機器、 研究・教育機関
	その他	バッテリー（リチウムイオン・鉛）、 EMS、電力機器、 部材	産業用機器、民生用機器、 太陽光発電所、 半導体・液晶用部材

## 2-3. 販売状況（分野別の状況）

### 売上高 前年度・当初計画値比較

百万円（ ）内は構成比



半  
導  
体

当初、コロナ禍で車載用機器及び事務用機器向けの大幅な需要の落ち込みを想定していたが、第2四半期より中国向けの車載用機器が回復し、スマートフォン周辺機器向けの需要増加により、ほぼ前年並みの推移までリカバリーできた。

液  
晶

半導体同様、当初コロナ禍による落ち込みを想定していたが、同様に第2四半期より中国向けの車載用機器向けが回復し、スマートフォン向けの有機ELの特需、GIGAスクール構想の前倒執行の需要増により大幅に躍進した。

電  
子  
機  
器

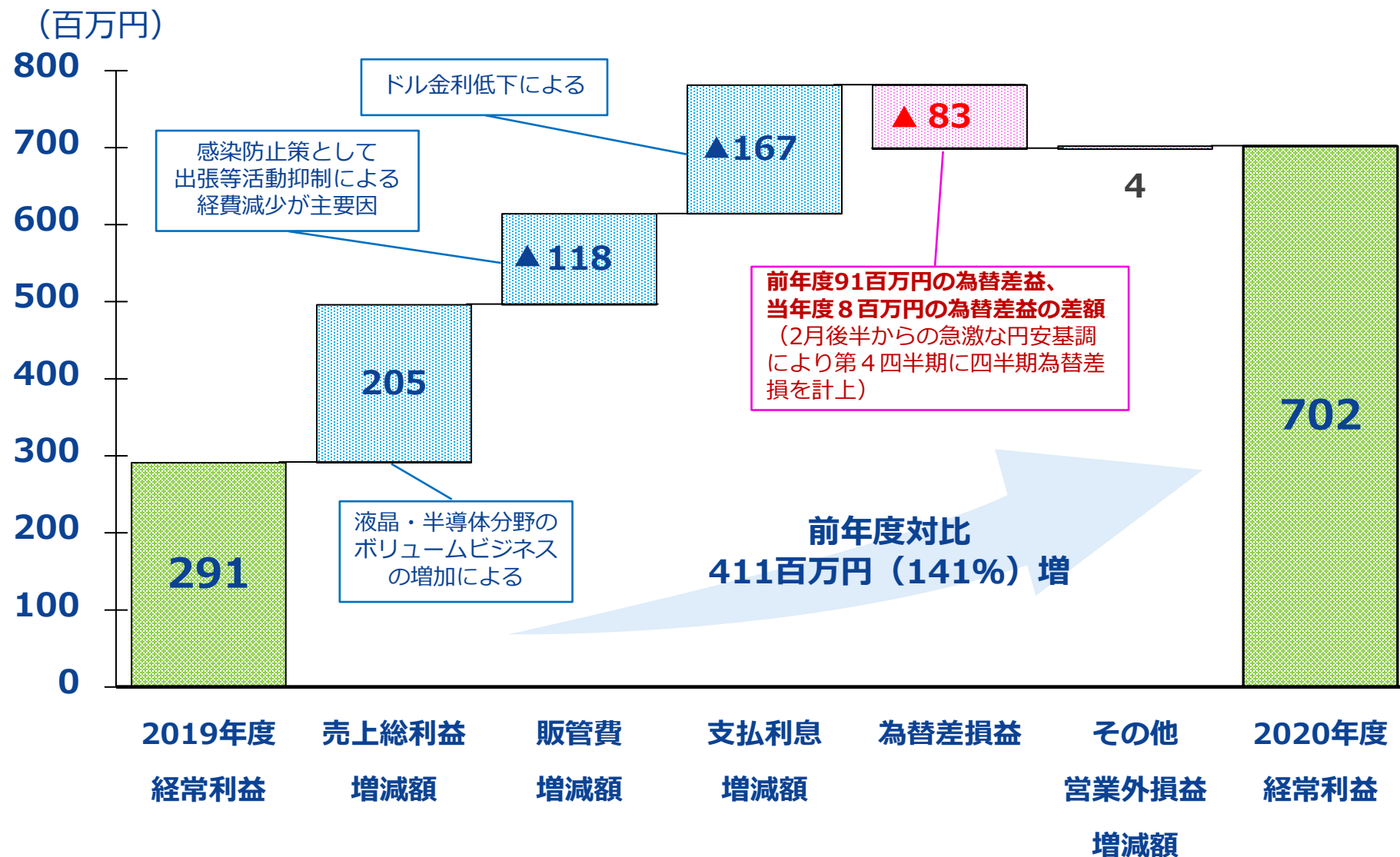
異物検出装置は堅調に推移し、研究・教育機関向けにもサーバーの納品を開始する等、コンポートビジネスを推進した。しかし、開発案件の遅延や事務用機器向けのメモリモジュールの需要が回復せず、やや軟調な推移となった。

そ  
の  
他

EMS等のソリューションビジネスを積極的に推進し堅調に推移するも、バッテリービジネスにのきなみ遅延が生じ、前年及び計画ともに未達となる。

※2020年度の業績予想を2020年5月13日に公表し、2020年11月30日に業績予想を修正しておりますが、当初の5月13日付の数値で対比しております。

## 2-4. 利益増減要因 (経常利益基準)





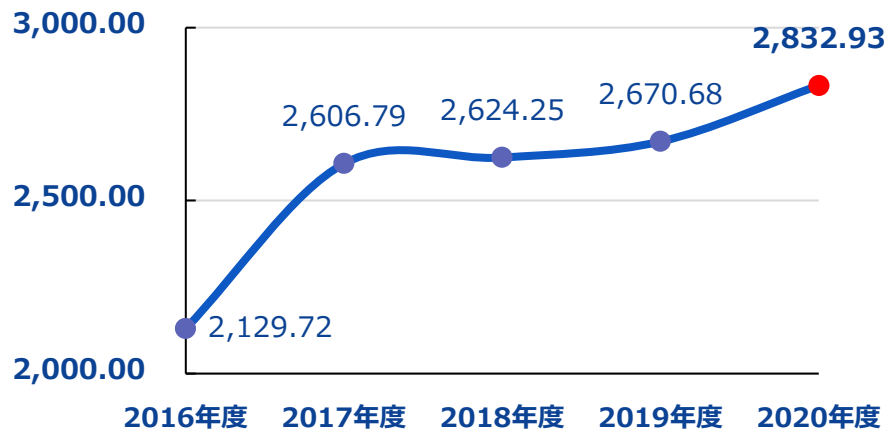
## 2-5. 財政状態（貸借対照表）

金額単位：百万円

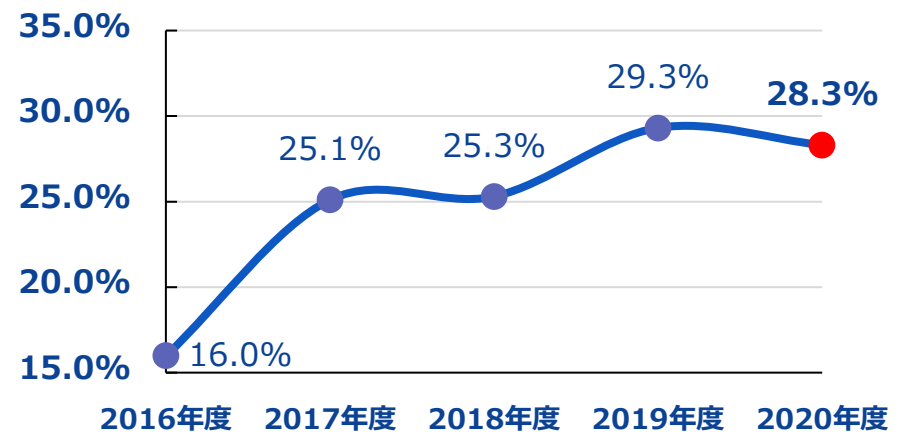
		2019年度末		2020年度末		増減
		期末（連結）	構成比	期末（連結）	構成比	
	流動資産	17,898	98.4%	19,973	97.9%	+2,075
	固定資産	294	1.6%	429	2.1%	+135
資産合計		18,193	100.0%	20,402	100.0%	+2,209
	流動負債	10,431	57.4%	13,042	63.9%	+2,611
	固定負債	2,422	13.3%	1,586	7.8%	△836
負債合計		12,854	70.7%	14,629	71.7%	+1,775
純資産合計		5,339	29.3%	5,773	28.3%	+434
負債・純資産合計		18,193	100.0%	20,402	100.0%	+2,209
1株当り純資産		2,670.68円	—	2,832.93円	—	+162.25円

## 2-6. その他の経営指標推移

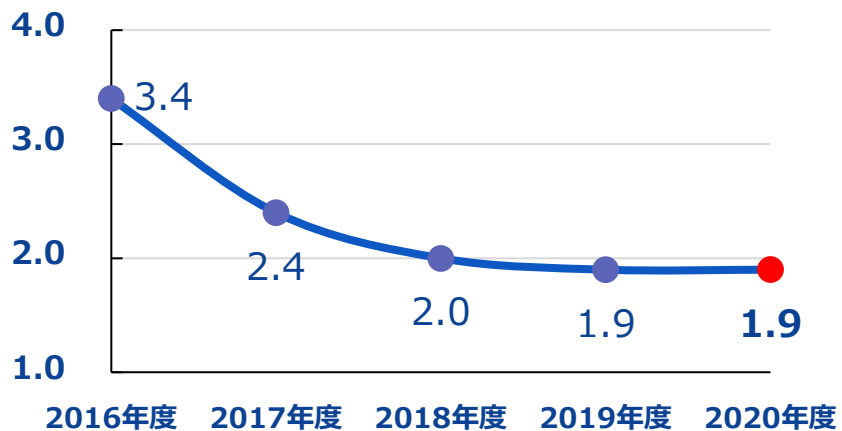
単位：円・銭  
**1株あたり純資産**



**自己資本比率**



単位：倍  
**有利子負債純資産倍率**



**流動比率**

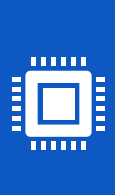





# 3. 2021年度の見通し

項番	項目	ページ
3-1	商品分野の組替え（位置づけ/組替表）	P16~17
3-2	2021年度業績予想のポイント	P18
3-3	販売状況見通し（新分野別の状況）	P19
3-4	利益予想の増減要因（経常利益基準）	P20

# 3-1. 商品分野の組替え（位置づけ）

2021年度より「収益構造改革」における製品戦略の定量可視化のため、商品分野の分類を従来の4分類（半導体・液晶・電子機器・その他）から5分類（半導体製品・ディスプレイ・システム製品・バッテリー&電力機器・その他）に組替え、表示してまいります。新たな分野の位置づけは、以下のとおりです。

	<b>半導体製品</b>	顧客及びメーカーとの間で長年培ってきた信頼関係やノウハウを基に、ディスプレイ分野とともに、引続き当社の中核分野と位置づける。 従前の旧半導体分野に加え、旧電子機器分野からメモリモジュール及びSSDを編入し、半導体製品商材を総合した分野とする。
	<b>ディスプレイ</b>	半導体製品分野同様、引続き当社の中核分野と位置づける。 旧液晶分野の液晶モジュール、タッチパネル、有機ELに、液晶及びLEDディスプレイを加え、表示系にかかる商材を総合した分野とする。
	<b>システム製品</b>	「収益構造改革」の成否を見極めるうえでの重要・注力分野と位置づける。 コンポーネントビジネス推進の観点より、従前の旧電子機器分野の検査等装置といった装置ビジネスやBoard等に、旧その他分野よりEMS等の商材の組合せやソリューション等、付加価値の高いビジネスモデルを編入し、それらを総合した分野とする。
	<b>バッテリー &amp; 電力機器</b>	今後、市場の成長が期待されるバッテリーを基軸商材とし、「収益構造改革」を加速化させるための重要分野と位置づける。旧その他分野より編入した電力エネルギーを切口として、バッテリーセルといったキーパーツから周辺パーツへの展開、発電所用の電力機器を含め、脱炭素化社会に向けた商材を総合した分野とする。
	<b>その他</b>	上記に当てはまらない商材及び新たな取組みの商材を総合した分野と位置づける。



# 3-1. 商品分野の組替え（組替表）

品目別(新5分類)		←	品目別(旧4分類)	
半導体製品	メモリ	←		半導体
	メモリモジュール			
半導体製品	SSD	←		半導体
	ASSP			
	ASIC			
	CPU・GPU			
	LED			
	ファウンドリ			
ディスプレイ	液晶モジュール	←		液晶
	有機EL			
	タッチパネル			
	液晶ディスプレイ			
	LEDディスプレイ			
システム製品	検査等装置	←	(新設)	電子機器
	通信モジュール			
	メモリモジュール			
	SSD			
	Board			
システム製品	EMS	←		電子機器
	サーバ			
	その他システム製品			
バッテリー&電力機器	電池関連商品	←		(新設)
	電力機器			
その他		←		その他
	材料 その他			

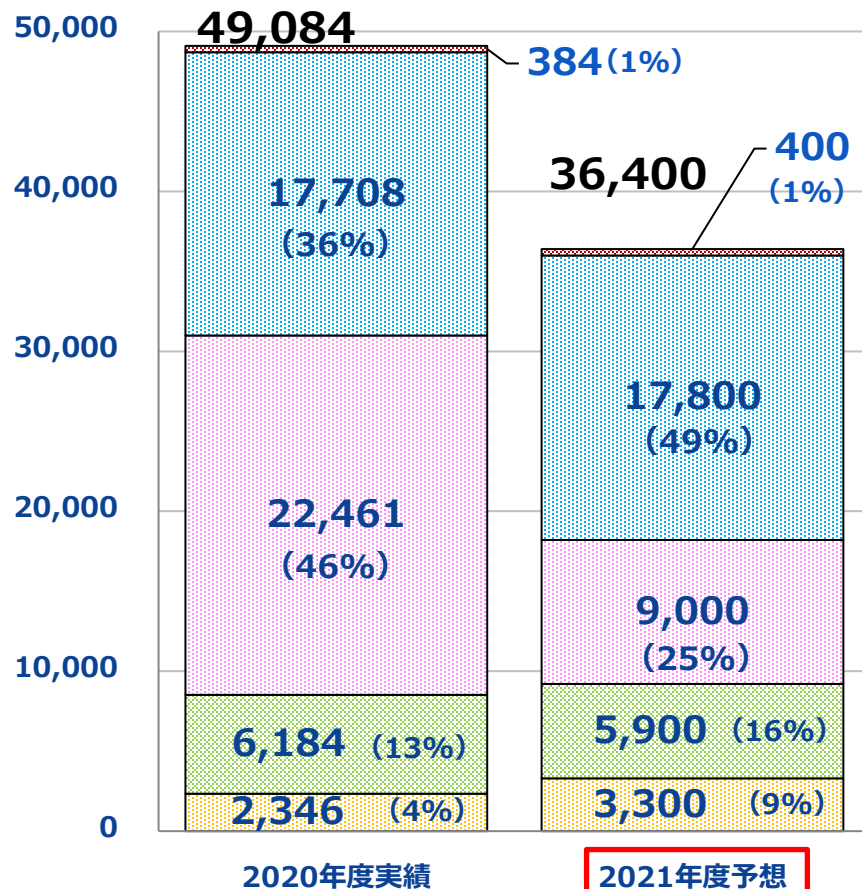
## 3-2. 2021年度業績予想のポイント

指標	分野・科目	ポイント
売上高／ 売上総利益	半導体製品	売上高は、世界的半導体不足の懸念材料あるも、年度後半より安定すると想定し2020年度並みの推移する見通し。
	ディスプレイ	売上高は、商流変更や特別需要の反動減により、年度後半より大幅に減少する見通し。 新規メーカー開拓・FA向けの開拓等、利益率向上に注力。
	システム製品	売上高は、異物検出装置が堅調な推移、EMSが増加するも、開発案件の遅延の影響が残りとして想定し、微減の見通し。
	バッテリー& 電力機器	売上高は、2020年度の遅延しているビジネスが、年度後半より再開すると想定し、増加する見通し。
	売上高総括	売上高合計は、ディスプレイ分野の商流変更や特別需要の反動減が主な要因となり、減少する見通し。
		売上総利益は、各分野とも利益率を改善し、ディスプレイ分野の落込みをリカバリー。その結果、2020年度と同水準と見通す。
営業利益	販売管理費	売上総利益は2020年度並みの推移。そして、売上高の減少にともなう変動費及び各種手数料の減少により、販売費及び一般管理費は、2020年度に対し減少する見込み。よって、営業利益は増益と見通す。
経常利益	支払利息	金利水準は2020年度と同水準と想定。売上高（原価）の減少にともない有利子負債も減少すると想定。
	為替差損益	想定せず。ただし、2020年度は8百万円の為替差益を計上したため、差額がマイナス要因。
		経常利益は、営業利益の増加、支払利息の減少により増益と見通す。

**大幅な減収（▲約126億円、▲26%）となるも、「収益構造改革」の推進により、2020年度を上回る経常利益の確保を見通す。**

# 3-3. 販売状況見通し（新分野別の状況）

## 売上高 2020年度比較



単位：百万円（ ）内は構成比

- バッテリー&電力機器
- システム機器
- ディ스플레이
- 半導体関連
- その他

### 半導体製品

年度前半は旺盛な需要に対し供給逼迫の影響を受け厳しい状況となりますが、年度後半より需給動向が安定することと想定しており、結果的に前年並みの推移と見通します。  
5G対応機器向けやデータセンタ向けへの拡販、ASICやCPU等の高付加価値商品の販売強化で利益向上への取組を加速化させてまいります。

### ディスプレイ

商流変更の影響と特別需要の反動減の影響を受け、大幅に減少するものと見通しております。  
新規メーカーの開拓及び産業機器向けを中心に高採算の新規ビジネスの開拓により、利益の向上への取組を加速化させてまいります。

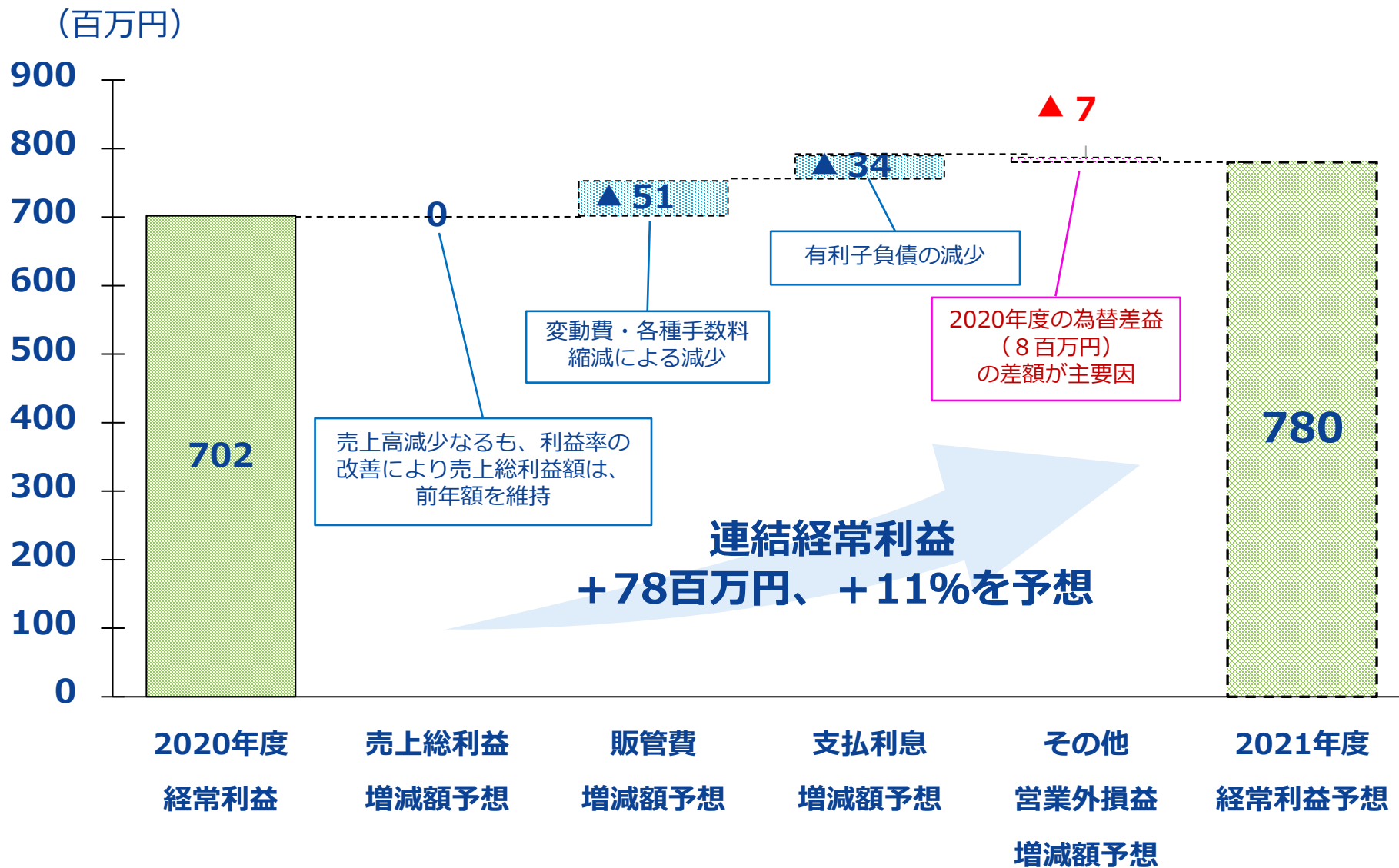
### システム製品

開発案件の遅延の影響が残ることが想定され、微減と見通しております。  
しかし、異物検出装置は堅調に推移し、EMSビジネスが増加するものと想定しており、利益ベースで確保できるものと見通しております。

### バッテリー & 電力機器

年度後半より遅延していたESS向けビジネスが再開されるものと想定しており、増加するものと見通しております。

### 3-4. 利益予想の増減要因 (経常利益基準)



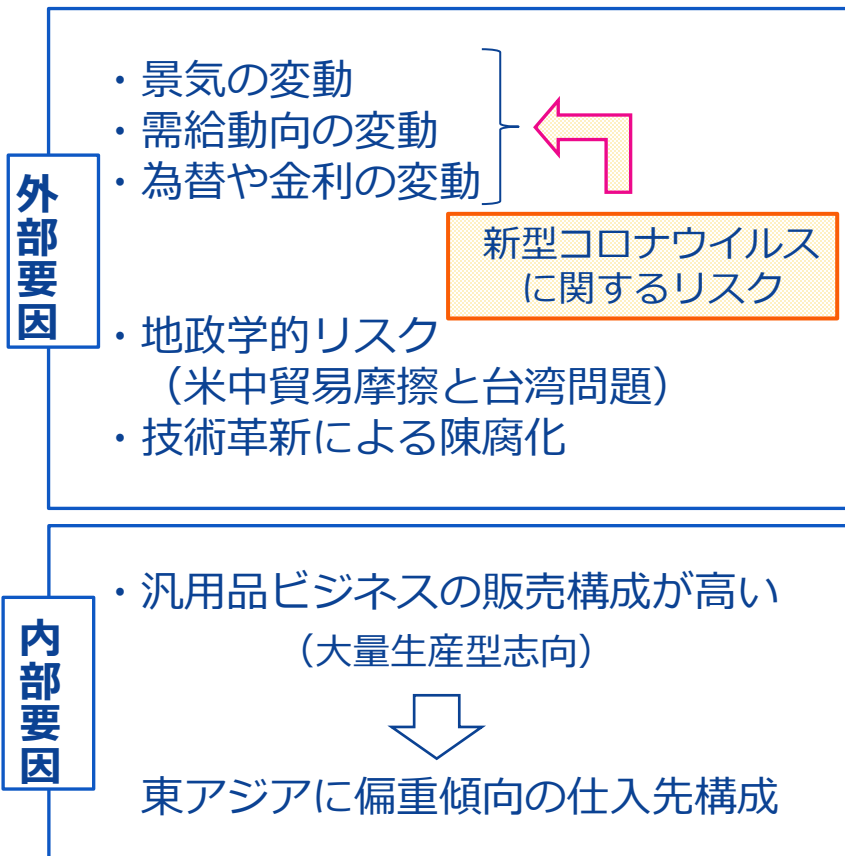


## 4. 対処すべき課題と収益構造改革

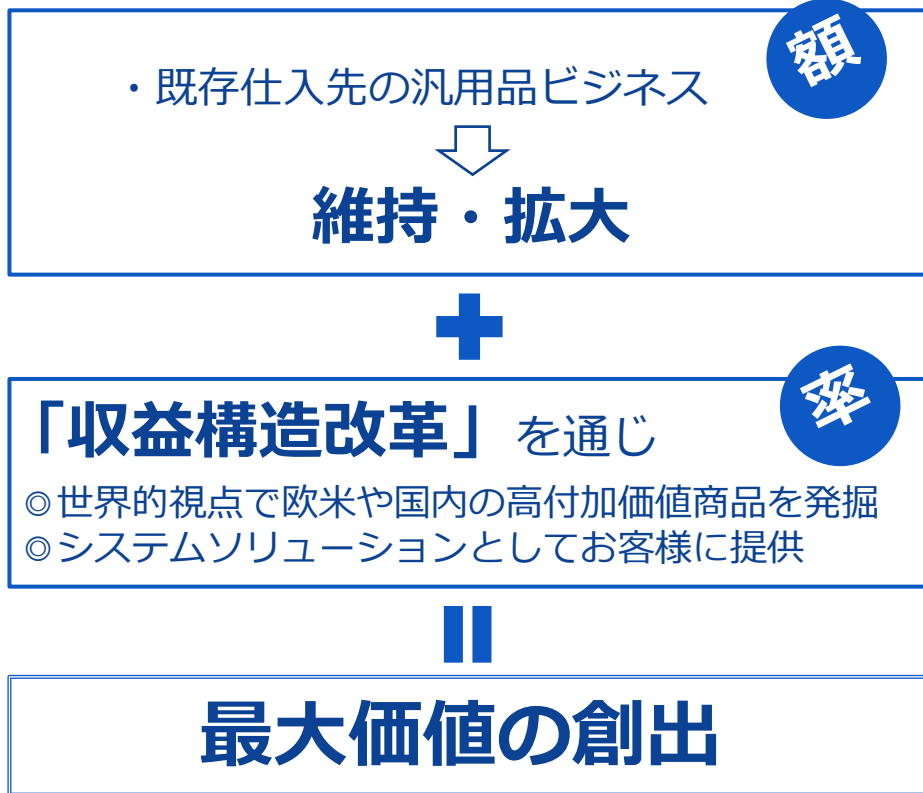
項番	項 目	ページ
4-1	対処すべき課題と対処方針	P22
4-2	2021年以降、日本を動かす2つのX	P23
4-3	収益構造改革とは	P24

# 4-1. 対処すべき課題と対処方針

## 対処すべき課題の現状認識



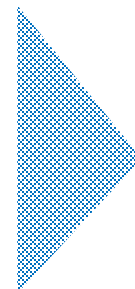
## 対処方針



安定的かつ持続的な成長

**DX** デジタル化  
デジタル・トランスフォーメーション

**GX** 脱炭素化  
グリーン・トランスフォーメーション



遅れていた  
日本のデジタル化、  
脱炭素化が急進展

## DX

DXを支えるテクノロジー  
クラウド、AI、IoT、5G

- ・ **IT投資の拡大**  
データセンターへの投資  
サーバー関連への投資拡大  
半導体需要の回復
- ・ **5Gの立ち上げ**  
基地局設備の拡大  
自動運転  
通信チップの需要UP

## GX

ポストコロナへの経済対策の期待

- ・ **再生可能エネルギー投資の拡大**  
ESS（バッテリー）の需要拡大
- ・ **EV化の加速**  
自家用車だけでなく、内燃機関より  
EV化へのシフトが加速  
▼  
電池とモーターへ

収益構造改革との高親和性 ▶ ビジネスチャンスが拡大

# 4-3. 収益構造改革とは

## 基本戦略

- ① 中核分野（半導体製品・ディスプレイ）の高利益化
- ② 収益のもう一つの柱となるビジネスモデルの確立
- ③ 資金効率の向上と財務体質の強化

## 市場・顧客戦略

### 5G・IoT・EV

基地局等の通信インフラ、  
FA (Factory Automation)  
向け応用製品への拡販

### 新規市場 優良顧客の開拓

農機具・輸送機器・建設機器・  
データセンタ・医療機器等の  
市場及び優良顧客を開拓



SHINDEN HIGHTEX  
CORPORATION

有機的に運用

## 製品戦略

国内・台湾・欧米  
の既存メーカーの  
深堀及び新規開拓

既存ディスプレイ  
メーカーの深堀  
新規ディスプレイ  
メーカーの発掘

高付加価値  
半導体製品の拡販

ESS向け  
バッテリーの拡販

バッテリー+モータ  
のソリューション  
ビジネスを展開

EMSの強化

## 財務戦略

- ① 現在の良好な取引金融機関との関係を維持し、業容拡大に対応できる安定的な資金調達手段を確保
- ② 高利益化による資金効率の向上をもって自己資本を充実させ、財務体質を強化



# 5. 経営目標と株主還元

項番	項目	ページ
5-1	経営目標	P26
5-2	株主還元	P27

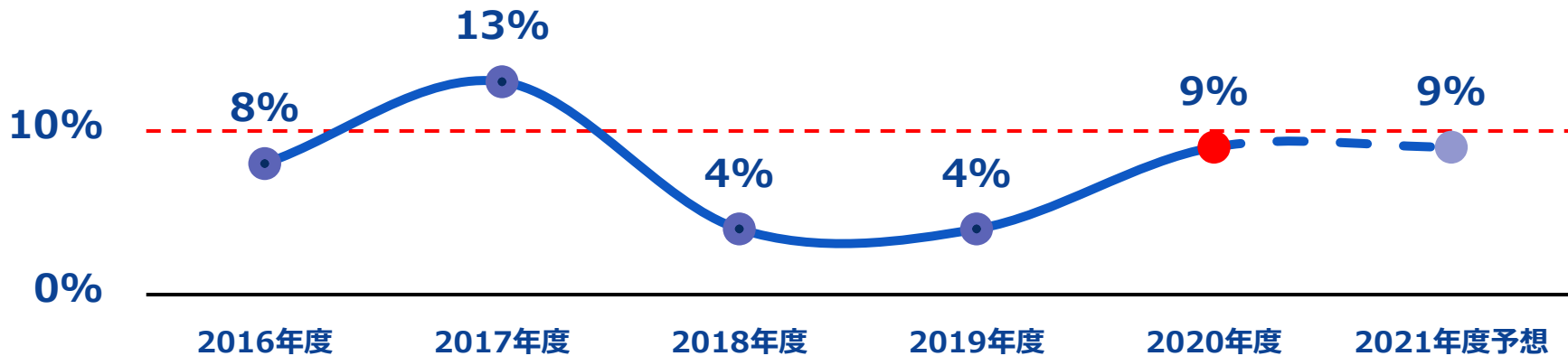
# 5-1. 経営目標

「収益構造改革」を推進し高利益化を図るとともに、  
資産の効率化と財務レバレッジの向上を追求してまいります。



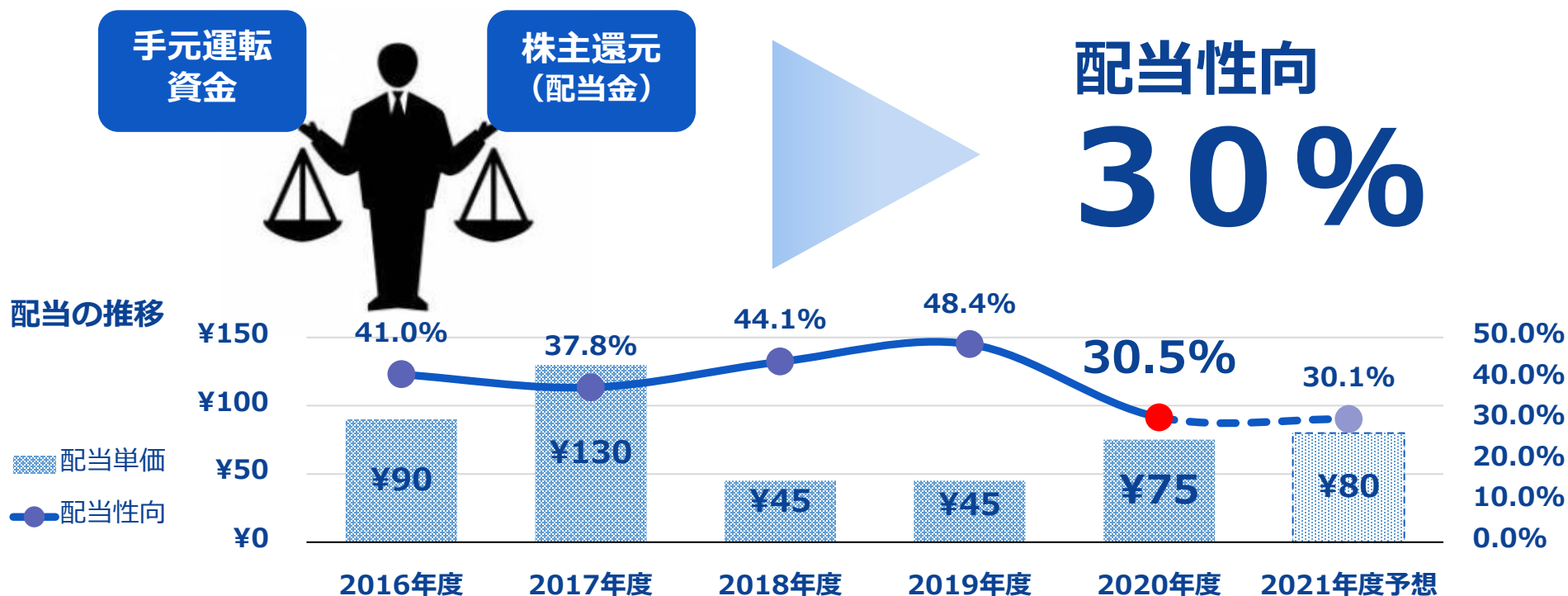
(※) 自己資本利益率  
ROE=当期純利益÷自己資本 x 100

ROEの推移



## ■基本方針及び配当政策

当社は、株主様に対する利益還元を重要な経営政策のひとつと位置づけ、財政状態や経営環境等を総合的に勘案し、必要な内部留保を確保しつつ、配当を実施いたします。当社の株主様への還元は、年1回 期末配当として、株主総会のご決議により配当を実施することを基本方針としております。



## 6. 参考(用語解説)

用語	解説
5G	5th Generation : 第5世代移動通信システム
AI	Artificial Intelligence : 人工知能
ASIC	Application Specific Integrated Circuit : ある特定用途、顧客向けに開発されたカスタムIC (集積回路) です。
ASSP	Application Specific Standard Product : ある特定用途に向けて開発された汎用IC (集積回路) です。
Board	電子回路基板 : ある特定の機能を実現するため、様々な電子部品を実装した回路基板です。
CPU	Central Processing Unit : コンピュータ等の中心的な処理装置としての電子回路。中央処理装置等と訳されます。
EMS	Electronics Manufacturing Service : 製品の開発・生産を受託するサービスです。
ESS	Energy Storage System : 電力貯蔵システム
EV	Electric Vehicle : 内燃機関でなく電力を動力とする車両
FA	Factory Automation : 工場における生産工程の自動化を図るシステムのことです。
GPU	Graphics Processing Unit : 3Dグラフィックスの表示に必要な計算処理を行う半導体デバイスです。
IoT	Internet of Things : モノのインターネット
IT	Information Technology : 情報技術。コンピュータとネットワークを利用した技術の総称と考えられています。
LED	Light Emitting Diode : 電圧を加えた際に発光する半導体素子。照明等の幅広い用途で利用されています。
SSD	Solid State Drive : 半導体メモリをディスクドライブのように扱える補助記憶装置の一種です。
ファブトリ	顧客から設計データを受け取り、その設計に沿って、半導体メーカーが半導体ウェハを製造することです。
有機EL	Organic Electro Luminescence : 特定の有機物質に電圧をかけると、有機物質自体が光る現象を利用し、これからの世代のTVやスマートフォンなどの表示部分で使用されています。



## 新型コロナウイルスに関するリスク情報

感染拡大の抑制策を講じつつ経済活動の水準が回復する見通しがある一方で、ワクチン接種等の防疫体制が整うまで一定の時間を要することや、感染者数をコントロール可能な水準に抑制するために引続き行動の制約が残る見通しもあり、同感染症による経済活動の先行きは依然不透明な状況にあります。

今後、さらなる感染拡大による厳しい行動抑制策がとられ、経済活動が著しく停滞する事態が発生する場合は、以下の要因等で、当社グループの業績に影響を与えるおそれがあります。

- ① 取引先の生産機能、物流機能が著しく低下することでサプライチェーンの寸断が継続し、需要及び供給が停滞する場合。
- ② 当社グループが部品、資材等の供給が可能であっても、他の必要部品や資材が調達できず取引先が生産を見合わせる場合。
- ③ 上記①または②、その他の予見できない要因により、顧客の所要数量に大幅な変動が生じた時は、保有している棚卸資産の廃棄、または資産価値評価の見直し等が必要となる場合があります。

当社グループは、「収益構造改革」を加速化することでリスク耐性を強化し、事業環境の変化への対応力を一層高めるよう努めてまいります。同感染症の状況は刻々と変化しており、同感染症にかかるリスク要因の発生時期や影響度を、現段階で予測することは困難であります。

本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社（以下、当社）の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまっています。

すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、2021年5月13日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもあり得ますことをご承知おきください。

## 本資料に関するお問い合わせ

シンデン・ハイテックス株式会社  
経営企画室

フリーコール：0800-5000-345